

菅平付近の鳥相*

齊藤隆史・安藤 裕

Takashi SAITO and Hiroshi ANDO

The avifauna in Sugadaira and vicinity

菅平産の鳥類についてはこれまでに八木(1939), 横沢, 東京教育大学生態学研究室(1957), 六川(1962), 六川・小山(1964) 宮下(1964), 安藤(1967)などの報告や資料がある。ここではこれらの報告と実験所所蔵の標本を基にし, 筆者らの観察とその後の新記録種とを加え, 菅平付近の鳥相についてまとめてみたい。さらに, 従来報告の中で, 分布上特に興味のある種や問題のある種について, 再検討すると共に, 夏期に菅平高原生物実験所付近で普通にみられる鳥については学生実習用のテキストとしての役割をもたせる意味で, やゝ詳しい解説を加えることにする。

なお, 対象地域は菅平高原, 根子岳, 四阿山を中心とするが, リストには真田町, 長野市保科の山内, 須坂市仙仁温泉および米子沢, 群馬県吾妻郡嬭恋村の西部などで観察された種もふくめてある。

本文に入るに先だち, 種々御教示をいただいた信州大学教育学部の羽田健三教授に厚くお礼申し上げる。

菅平地域の植生

菅平は長野県小県郡の北東部に位置し, 四阿山(2,333m), 根子岳(2,195m)の西南斜面の十の原と菅平盆地の総称である。この地域の植生は次のように大別できる。

1. 草原——四阿山, 根子岳の西南斜面(海拔1,300~1,600m)にみられる。この草原はシバとワラビを優占種とし, ワレモコウ, ススキ, マツムシソウなどの植物が混生している。この地域は古くから牧場として利用され, 人為的な要素が加わって発達した草原である。

2. 湿原——菅平盆地にみられ, ヨシやオオカササゲが優占した湿原で, 湿原の中または周辺部にはハンノキ・ヤチダモを優占種とする林が形成されている。

3. 亜高山林——根子岳中腹にはダケカンバ, ミヤマハンノキ, ミネヤナギなどの広葉樹林, 根子岳, 四阿山の山頂とその間の鞍部付近にはオオシラビソ, コメツガ, シラビソ, トウヒなどの針葉樹林がある。

4. 人為的植生——湿原および海拔1400m位までの草原の一部は耕地として利用され, 主にキャベツ, レタス, 白菜, 馬鈴薯などが栽培されている。また大松山, 太郎山一帯および十の原の一部はカラマツの植林地であり, 菅平地域の森林面積の大部分を占めている。

5. その他——大洞川に流れ込む唐沢, 大明神沢, 中ノ沢および滝ノ入沢などの溪流沿いには, シラカバ, カラマツ, ヤハズハンノキ, ヤマハンノキ, コナラ, ウリハダカエデなどの林がみられ, 草原の中で地下水の高い場所ではオオバボダイジュ, ミズナラ, ハンノキ, ズミなどの林, またはノイバラ, ノリウツギ, ヒョウタンボクなどの灌木がやぶを形成している。

* 東京教育大学理学部附属菅平高原生物実験所業績 第20号

菅平付近の鳥*

以下、リストの順序に従い分布上興味ある種、問題のある種、新記録種および菅平高原生物実験所付近で、夏季普通にみられる種について、簡単な解説を加える。

- | | | | |
|------------------------------------|---------|------------------------------------|------------|
| I. Ciconiiformes | コウノトリ目 | 26. <i>Rallus aquaticus</i> | フククイナ |
| 1. Ardeidae | サギ科 | 27. <i>Porzana fusca</i> | ヒククイナ |
| 1. <i>Ixobrychus sinensis</i> | ヨシゴイ | VI. Charadriiformes | チドリ目 |
| 2. <i>I. eurhythmus</i> | オオヨシゴイ | 7. Charadriidae | チドリ科 |
| 3. <i>Gorsakius goisagi</i> | ミゾゴイ | 28. <i>Vanellus vanellus</i> | タゲリ |
| 4. <i>Nycticorax nycticorax</i> | ゴイサギ | 8. Scolopacidae | シギ科 |
| 5. <i>Egretta intermedia</i> | チュウサギ | 29. <i>Tringa incana</i> | キアシシギ |
| 6. <i>E. garzetta</i> | コサギ | 30. <i>T. hypoleucos</i> | イソシギ |
| 7. <i>Ardea cinerea</i> | アオサギ | 31. <i>Numenius arquata</i> | ダイシャクシギ |
| II. Anseriformes | ガンカモ目 | 32. <i>N. phaeopus</i> | チュウシャクシギ |
| 2. Anatidae | ガンカモ科 | 33. <i>Scolopax rusticola</i> | ヤマシギ |
| 8. <i>Aix galericulata</i> | オシドリ | 34. <i>Gallinago gallinago</i> | タンギ |
| 9. <i>Anas platyrhynchos</i> | マガモ | 35. <i>G. hardwickii</i> | オオジシギ |
| 10. <i>A. crecca</i> | コガモ | 36. <i>G. solitaria</i> | アオシギ |
| 11. <i>A. formosa</i> | トモエガモ | 9. Phalaropodidae | ヒレアシシギ科 |
| 12. <i>Aythya marila</i> | スズガモ | 37. <i>Phalaropus lobatus</i> | アカエリヒレアシシギ |
| III. Falconiformes | ワシタカ目 | VII. Columbiformes | ハト目 |
| 3. Accipitridae | ワシタカ科 | 10. Columbidae | ハト科 |
| 13. <i>Milvus migrans</i> | トビ | 38. <i>Sphenurus sieboldii</i> | アオバト |
| 14. <i>Accipiter gentilis</i> | オオタカ | 39. <i>Streptopelia orientalis</i> | キジバト |
| 15. <i>A. virgatus</i> | ツミ | VIII. Cuculiformes | ホトトギス目 |
| 16. <i>A. nisus</i> | ハイタカ | 11. Cuculidae | ホトトギス科 |
| 17. <i>Buteo buteo</i> | ノスリ | 40. <i>Cuculus fugax</i> | ジュウイチ |
| 18. <i>Aquila chrysaetos</i> | イヌワシ | 41. <i>C. canorus</i> | カッコウ |
| 4. Falconidae | ハヤブサ科 | 42. <i>C. saturatus</i> | ツツドリ |
| 19. <i>Falco peregrinus</i> | ハヤブサ | 43. <i>C. poliocephalus</i> | ホトトギス |
| 20. <i>F. subbuteo</i> | チゴハヤブサ | IX. Strigiformes | フクロウ目 |
| 21. <i>F. tinnunculus</i> | チョウゲンボウ | 12. Strigidae | フクロウ科 |
| IV. Galliformes | キジ目 | 44. <i>Asio otus</i> | トラフズク |
| 5. Phasianidae | キジ科 | 45. <i>Otus scops</i> | コノハズク |
| 22. <i>Coturnix coturnix</i> | ウズラ | 46. <i>O. asio</i> | オオコノハズク |
| 23. <i>Bambusicola thoracica</i> | コジュケイ | 47. <i>Ninox scutulata</i> | アオバズク |
| 24. <i>Phasianus soemmerringii</i> | ヤマドリ | 48. <i>Strix uralensis</i> | フクロウ |
| 25. <i>P. colchicus</i> | キジ | X. Caprimulgiformes | ヨタカ目 |
| V. Gruiformes | ツル目 | 13. Caprimulgidae | ヨタカ科 |
| 6. Rallidae | クイナ科 | | |

* 学名、種名(標準和名)は日本鳥類目録第5版編集委員会(1971)日本鳥類目録第5版編集中間報告、鳥 第20巻 89号 85~100によった

49. *Caprimulgus indicus* ヨタカ
- XI. Apodiformes アマツバメ目
14. Apodidae アマツバメ科
50. *Chaetura caudacuta* ハリオアマツバメ
51. *Apus pacificus* アマツバメ
- XII. Coraciiformes ブッポウソウ目
15. Alcedinidae カワセミ科
52. *Halcyon coromanda* アカショウビン
53. *Alcedo atthis* カワセミ
54. *Ceryle lugubris* ヤマセミ
- XIII. Piciformes キツツキ目
16. Picidae キツツキ科
55. *Picus awokera* アオゲラ
56. *Dendrocopos major* アカゲラ
57. *D. leucotos* オオアカゲラ
58. *D. kizuki* コゲラ
- XIV. Passeriformes スズメ目
17. Alaudidae ヒバリ科
59. *Alauda arvensis* ヒバリ
18. Hirundinidae ツバメ科
60. *Hirundo rustica* ツバメ
61. *Delichon urbica* イワツバメ
19. Motacillidae セキレイ科
62. *Motacilla cinerea* キセキレイ
63. *M. grandis* セグロセキレイ
64. *Anthus hodgsoni* ビンズイ
65. *A. spinoletta* タヒバリ
20. Campephagidae サンショウクイ科
66. *Pericrocotus roseus* サンショウクイ
21. Pycnonotidae ヒヨドリ科
67. *Hypsipetes amaurotis* ヒヨドリ
22. Laniidae モズ科
68. *Lanius tigrinus* チゴモズ
69. *L. bucephalus* モズ
70. *L. cristatus* アカモズ
23. Bombycillidae レンジャク科
71. *Bombycilla garrulus* キレンジャク
72. *B. japonica* ヒレンジャク
24. Cinclidae カワガラス科
73. *Cinclus pallasii* カワガラス
25. Troglodytidae ミソサザイ科
74. *Troglodytes troglodytes* ミソサザイ
26. Prunellidae イワヒバリ科
75. *Prunella collaris* イワヒバリ
76. *P. rubida* カヤクグリ
27. Muscicapidae ヒタキ科
77. *Erithacus akahige* コマドリ
78. *E. calliope* ノゴマ
79. *E. cyane* コルリ
80. *E. cyanurus* ルリビタキ
81. *Phoenicurus auroreus* ジョウビタキ
82. *Saxicola torquata* ノビタキ
83. *Turdus sibiricus* マミジロ
84. *T. dauma* トラツグミ
85. *T. cardis* クロツグミ
86. *T. chrysolaus* アカハラ
87. *T. pallidus* シロハラ
88. *T. obscurus* マミチャジナイ
89. *T. naumanni* ツグミ
90. *Cettia squameiceps* ヤブサメ
91. *C. diphone* ウグイス
92. *Locustella lanceolata* マキノセンニュウ
93. *Acrocephalus bistrigiceps* コヨシキリ
94. *A. arundinaceus* オオヨシキリ
95. *Phylloscopus borealis* メボソムシクイ
96. *P. tenellipes* エゾムシクイ
97. *P. occipitalis* センダイムシクイ
98. *Regulus regulus* キクイタダキ
99. *Cisticola juncidis* セッカ
100. *Muscicapa narcissina* キビタキ
101. *M. mugimaki* ムギマキ
102. *M. cyanomelana* オオルリ
103. *M. sibirica* サメビタキ
104. *M. latirostris* コサメビタキ
105. *Terpsiphone atrocaudata* サンコウチヨウ
28. Paridae シジュウカラ科
106. *Parus montanus* コガラ
107. *P. ater* ヒガラ
108. *P. varius* ヤマガラ
109. *P. major* シジュウカラ
110. *Aegithalos caudatus* エナガ
29. Sittidae ゴジュウカラ科
111. *Sitta europaea* ゴジュウカラ
30. Certhiidae キバシリ科
112. *Certhia familiaris* キバシリ

31. Zosteropidae	メジロ科	128. <i>Loxia curvirostra</i>	イスカ
113. <i>Zosterops palpebrosa</i>	メジロ	129. <i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ
32. Emberizidae	ホオジロ科	130. <i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ
114. <i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	131. <i>Eophona personata</i>	イカル
115. <i>E. yessoensis</i>	コジュリン	132. <i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ
116. <i>E. fucata</i>	ホオアカ	34. Ploceidae	ハタオリドリ科
117. <i>E. rustica</i>	カシラダカ	133. <i>Passer rutilans</i>	ニュウナイスズメ
118. <i>E. elegans</i>	ミヤマホオジロ	134. <i>P. montanus</i>	スズメ
119. <i>E. sulphurata</i>	ノジコ	35. Sturnidae	ムクドリ科
120. <i>E. spodocephala</i>	アオジ	135. <i>Sturnus sturninus</i>	コムクドリ
121. <i>E. variabilis</i>	クロジ	136. <i>S. cineraceus</i>	ムクドリ
33. Fringillidae	アトリ科	36. Corvidae	カラス科
122. <i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ	137. <i>Garrulus glandarius</i>	カケス
123. <i>Leucosticte arctoa</i>	ハギマシコ	138. <i>Cyanopica cyana</i>	オナガ
124. <i>Carduelis sinica</i>	カワラヒワ	139. <i>Nucifraga caryocatactes</i>	ホンガラス
125. <i>C. spinus</i>	マヒワ	140. <i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス
126. <i>C. flammea</i>	ベニヒワ	141. <i>C. macrorhynchos</i>	ハシブトガラス
127. <i>Carpodacus roseus</i>	オオマンコ		

スズガモ

海鴨類に属し、入江、海岸の浅瀬、河口、広い淡水湖などに冬期多数渡来する中型種であるが、八木(1939)、六川、小山(1964)には冬鳥として報告されている。

トビ 全長600ミリ

全身暗褐色をした日本で最も普通にみられるタカ類。尾が長く、又状をしている。飛翔時には又状の尾と翼下面の先端にある白色が識別点である。輪を描いて帆翔していることが多く、ピーヒョロヒョロヒョロという鳴き声の特徴。森林よりも開けた場所に多く、海岸や河口でよくみられる。

ツミ

小型のタカで、日本からは1954年富士山麓、1968年四国の石鎚山で繁殖記録がある。菅平では1939年7月に大松山での繁殖記録があり、幼鳥の標本が教育大学高原生物実験所に所蔵されている。

チゴハヤブサ

ユーラシア大陸に広く分布しているが、日本には夏鳥として北海道に渡来し、繁殖する。本州以南においては、冬鳥であるが数は少ない。六川、小山(1964)には漂鳥として報告されている。本州以南での繁殖記録は1955年岩手県で確認された1例にすぎない。

コジュケイ

新記録種。1969年2月、石舟で捕獲された。

キジ 全長♂810ミリ ♀580ミリ

♂は全体が金属光沢のある緑色で、尾が長い。顔は皮膚が裸出して赤く、後頭に短い冠毛がある。尾は紫味を帯びた灰褐色で、黒斑がある。♀は♂より尾が短く、全身茶褐色地に暗褐色の縦斑がある。草原や疎林にすみ、密な森林には入らない。♂はケンケンと鳴く。ヤマドリとの区別は、♂も♀も全身赤褐色であり、ヤマドリ♂は尾が非常に長く、冠羽がないこと、♀はキジの♀に似るが赤味が強く、目の周囲に赤色部があることなどである。またヤマドリは山地の傾斜地の森林にすみ、キジとは明らかに生息環境が異なっている。

キアシシギ

1965年5月、大日向において本種らしいシギが記録されたが確証はない。本種は旅鳥として干潟、河原、水田などに普通のシギである。

ダイシャクシギ

チュウシャクシギ

2種とも六川、小山(1964)に旅鳥として報告されているが、主に広い干潟や河口にみられるシギである。

アカエリヒレアシシギ

本種は海上で生活するシギであるが、渡りの際には海岸の干潟や内陸の池沼にも渡来することがある。1966年8月、神科で記録されている。

キジバト 全長330ミリ

全身灰褐色、腹面はやや淡く、ぶどう色を帯びる。頸側には灰青色と黒色の斑があり、雨覆の羽縁が茶色をしている。尾端は灰白色。羽ばたきは非常に規則的で、直線的に飛ぶ。平地や山地の林にすみ、農耕地や草地の地上で採餌する。デデッポッポー、デデッポッポーと低い声でくり返し鳴く。

カッコウ 全長320ミリ

背面は灰褐色で、翼が褐色をしており、尾は長く、黒い。頭部から胸にかけて灰色だが、腹は白く、黒色の細く密な横縞がある。飛んでいると小型のタカ類に似ているが、頭部がほっそりしていること、尾が長く、楔状をしていることで区別できる。平地から1,000m前後までの草原や疎林にすみ、カッコウ、カッコウと鳴く。ホオジロ、モズ、オオヨシキリなどの巣に托卵するが、実験所構内ではアカモズに托卵することが多い。1962年から1965年までの初認日は、それぞれ5月16日、5月15日、5月16日、5月17日であった。

ホトトギス 全長275ミリ

形態、色彩ともカッコウによく似ているが小型である。腹部の横縞はカッコウに比べて太くてあらい。低地から亜高山帯の森林にすみ、「テッペンカケタカ」とか「特許許可局」などとききなされる鋭い声でなく。ウグイス、ミンサザイの巣に托卵する。

トラフズク

新記録種。1964年、菅平で記録された。

ヨタカ 全長290ミリ

全体黒褐色。頭部が大きく、嘴は扁平で巾広い。喉には大きな白斑があり、♂は翼と尾にも白斑がある。夜行性で、昼間は木の枝などに平行に伏せて止まっていて目立たない。草原や林縁、疎林にすみ、宵のうちとあけ方にキョ、キョ、キョ、と続けて鳴く。

アマツバメ 全長195ミリ

背面は黒褐色で、上尾筒が白い。腹面は喉が白く、胸以下は暗褐色地に白斑がある。飛翔時には翼が細長く、鎌形にみえ、尾は燕尾だが、あまり

開かず長細くみえる。高山や海岸の岩壁のある場所にすみ。亜高山から高山にすみハリオアマツバメはアマツバメに似ているが、尾が短く、角尾で、額、喉、下尾筒が白い。飛ぶと尾端が四角にみえ、翼の巾もアマツバメよりも広い。飛んでいるところを上からみると、背中の灰色部と翼の体側の白斑がみえること、下からみた場合には喉と下尾筒が白いことによりアマツバメと区別できる。

アオゲラ 全長290ミリ

背面は緑色、腹面が灰緑色をしており、腹部には黒色の斑がある。♂は頭部が赤く、♀は後頭部のみ赤い。♂♀とも頸線が赤で、すぐ下が黒い。山地の広葉樹林や針広混交林にすみ、ビョービョーと大声で鳴く。

アカゲラ 全長235ミリ

黒、白、赤のキツツキ。頭から尾までの背面は黒く、背中に一對の逆八字型をした白斑がある。翼は黒く、白色の横縞がある。額、顔、喉、胸は白く、腹以下は鮮紅色をしている。頸線は黒色で、頸側にも黒帯がある。♂のみ後頭が赤い。山地の落葉広葉樹林に多く、キョッ、キョッと鋭い声で鳴く。

コゲラ 全長150ミリ

全身褐色味の強い小型のキツツキ。背と翼には白い横縞があり、喉が汚白色で腹面には褐色の縦斑がある。山地の林にすみ、ギーギーと鳴く。

ヒバリ 全長170ミリ

背面は褐色地に黒斑があり、腹面は淡く胸には黒色の小縦斑が散在する。冠毛をもち、はっきりした淡色の眉斑があり、頬は茶色。地上では二足歩行し、飛び立つ時に尾羽の両側の白色が目立つ。ビルルッ、ビルルッという地鳴きが特徴で、さえずりは空中で行う。農耕地、草原、河原にすみ。

ツバメ 全長170ミリ

背面は光沢のある藍黒色、腹面が白く、額と喉は栗色。胸には黒色の横帯がある。尾は長く、切れ込みの深い燕尾。日本各地に普通にみられ、人家の軒などに皿形の巣をつくる。

イワツバメ 全長145ミリ

ツバメに似るが、小型。背面は藍黒色で、上尾

筒と腰が白く、腹面が白い。尾は短く、燕尾だが切れ込みが浅い。飛翔中にジュリリ、ジュリリと鳴く。山地や海岸の断崖にすむが、人家や橋などにも集団で営巣する。

キセキレイ 全長200ミリ

夏羽は背面石板色で、腹面が黄色。長い尾は黒く、両外側の尾羽が白い。♂は眉斑と頸線が白く、喉が黒いが、♀は頸線を欠き、喉が白い。尾を上下にふって、水際や地上をチョコチョコと歩行する。飛翔は波状で、チッチ、チッチと澄んだ声で鳴く。平地から高山帯までの水辺にみられるが、川の中流域以上の山地の溪流に最も多い。

セグロセキレイ 全長210ミリ

頭部から背面が黒く、額と眉斑が白色。腹面は胸が黒く、喉と胸以下が白い。1,500mまでの河川や湖沼などの水辺にすむ。飛翔は波状、ジジッ、ジジッとキセキレイよりもにごった声で鳴く。

ヒヨドリ 全長275ミリ

全体にほっそりした体つきにみえる鳥で、尾が長く、角尾。背面は灰褐色をしているが、頭部は白っぽくみえる。腹面は淡く、斑状。深く波状に飛び、翼が短く巾広いことと長い角尾が特徴。ピー、ピーまたはピーヨ、ピーヨと鳴く。林にすむが、常緑広葉樹林に最も多い。

モズ 全長200ミリ

♂は頭部が赤褐色で、白い眉斑と太くて黒い過眼線がある。背面は灰色、黒褐色の翼には白斑がある。腹面は喉以下が白く、脇が淡い褐色。♀は全体赤褐色をしていて、過眼線が茶色で、翼の白斑を欠く。胸面には小さな波状の横縞がある。止っている時には長い尾を上下左右に円を描くようにふる。キィーキィーキィーキチキチキチと大声で鳴く。耕地や草原に接した林縁や疎林にすむ、密な森林には入らない。

アカモズ 全長200ミリ

モズより尾が短く、全体赤褐色。♂は腹面が白く、脇が淡褐色をしている。過眼線は♂では黒いが、♀は黒褐色で、脇には波状の横縞がある。主に高原の林縁や疎林にすむ。

カワガラス 全長220ミリ

全体暗褐色、尾が短い鳥で、ずんぐりした体つきをしている。尾はミソサザイのように立ててい

ることが多く、水の上を低く直線的に早く飛ぶ。飛びながら、ビツ、ビツと鳴く。山地の溪流にすみ、歩きまわって岩の間から餌をとり、また水中にもぐって水底を歩いて水生昆虫などをとる。

ミソサザイ 全長105ミリ

小さく、尾も短い。丸い体つきをした鳥で、尾を立てていることが多い。背面はこげ茶色をしていて、はっきりした眉斑がある。腹面はやや淡色。山地の溪流沿いの林や岩のごろごろした林にすみ、やぶの中を動きまわって餌をとる。チャッ、チャッと鳴き、大声で複雑なさえずりをする。

イワヒバリ 全長180ミリ

全体黒褐色。喉は灰色地に白色の横斑がある。脇と腰は栗色で、翼には2条の白帯がある。ハイマツ帯より上部の岩場にすみ、森林には入らない。岩頭などでヒバリに似たさえずりをする。

ノゴマ

1950年秋に大洞で捕獲された記録がある。

ノビタキ 全長130ミリ

♂の夏羽は頭部から背にかけて黒色、頸側と上尾筒が白く、黒い翼には白斑がある。腹面は胸と脇が栗色をしているが、腹は白い。飛ぶと腰の白さと翼の逆八字型の白斑が目立つ。♀は背面褐色で、腹面が淡黄色をしていて、胸はやや赤味がある。高原にすみ、ジャツジャツという声と、ヒ、ヒという声が地鳴き。低木や草の茎などに止まり、ジョッチッ、チチ、チユッチチとさえずる。

シロハラ

新記録種。1966年11月、大日向で斃死しているものが発見された。

アカハラ 全長235ミリ

♂は背面緑褐色で、頭部は黒っぽい。腹面は胸から脇にかけてきつね色、腹は白い。♀は頭部と脇が♂よりも淡く、喉も白い。開けた明るい落葉樹林や下生えの多いカラマツ林にすみ、地上で採餌する。夕方と朝方にキョロン、キョロン、チーと美しい声でさえずる。

ヤブサメ 全長105ミリ

小型で尾の短い鳥。背面は赤味のある暗褐色、腹面は白い。黄褐色の眉斑と黒褐色の過眼線がある。1,500mぐらいまでの斜面の林で、やぶのよく茂った場所にすみ、やぶの中を動きまわってい

て姿をみせない。細く虫のようなシンシン……という声でさえずる。

ウグイス 全長150ミリ

背面緑褐色で、不明瞭な灰白色の眉斑がある。腹面は汚白色、尾が長い。平地から高山帯まで、1～2mの密なやぶがあれば林の内外を問わずみられる。特にササ原や林内のササやぶに多い。やぶの中や低木の下枝の間を、体を水平にして動きまわる。ホー、ホケキョとさえずり、笹鳴きといわれるチャッ、チャッという地鳴きがある。

マキノセンニウ

日本では北海道の東部と北部の海岸に近い草原に繁殖しているが、本州以南では主に旅鳥である。しかし、1931年8月と9月に富士山須走口二合目付近の草原で巣卵が発見され、その後も尾瀬沼などで夏季に番が観察されている。小林(1956)は菅平で繁殖しているらしいと述べ、六川、小山(1964)は夏鳥として報告しており、繁殖している可能性がある。

オオヨシキリ 全長185ミリ

背面が淡褐色をしていて、不明瞭な黄白色の眉斑がある。腹面は黄白色。湿地や水辺のアシ原にすみ、アシの茎などに止まって、ギョウギョウシン、ギョウギョウシン、ケケケケと大声でさえずる。

メボソムシクイ 全長130ミリ

背面は黄色味を帯びた緑褐色で、黄白色の眉斑がある。腹面は淡い黄白色。亜高山帯の針葉樹林にすみ、ジュリジュリジュリジュリと四拍子の声でさえずる。

キビタキ 全長135ミリ

♂は頭部、翼、尾が黒く、眉斑と腰が黄色をしていて、翼には白斑がある。喉から胸にかけてはオレンジ色で、腰は白い。♀は背面緑褐色、腰が黄緑色で、腹面は汚白色である。広葉樹林に多く、林内の枝に止まり、飛び出して昆虫を捕え再び元の枝に戻る典型的なヒタキ型の採餌をする。

オオルソ 全長165ミリ

♂は背面が美しいルリ色。喉から胸にかけては黒色、腹面は白い。♀は背面暗緑褐色、喉と腹が白く、胸は淡褐色をしている。山地の溪流沿いの広葉樹林に多く、樹頂や突出した枝に止まってさえずったり、ヒタキ型の採餌をする。複雑なさえ

ずりをするが、ゆっくりしたテンポであり、必ずギギッという軌音が入る。

サンコウチョウ 全長♂445ミリ ♀175ミリ

冠羽をもった尾の長い鳥。♂は頭部から胸にかけて紫黒色、背は赤褐色をしている。腹面は白く、尾が非常に長い。♀は冠羽が短く、頭部と胸が薄黒い。背面は♂よりも赤味が強く、尾は短い。♂♀とも目の周囲はコバルト色をしている。よく茂った広葉樹林に多く、林の下枝に止まってヒタキ型の採餌をする。ツキ、ヒ、ホン、ホイホイとさえずり、ギ、ギという地鳴きがある。

コガラ 全長125ミリ

頭部と喉が黒く、背面は淡い灰褐色。頬と腹面は白色をしている。落葉広葉樹林から亜高山帯の針広混交林にすみ。さえずりはチーソーチーという澄んだ声でくり返す。地鳴きの中ではツツ、ジャージャージャーが特徴。

ヒガラ 全長110ミリ

頭部と喉が黒く、喉の黒色は左右に広く張り出して頭部の黒色部につながっている。頭上には短い冠毛があり、頬は白色。背面は灰青色で、後頸の中央が白い。翼には2条の白帯があり、腹面は白色。尾が短い。亜高山帯の針葉樹林や針広混交林にすみ、ツピン、ツピン、ツピンと澄んだ声で早口にくり返してさえずる。

ヤマガラ 全長140ミリ

尾が短く、ずんぐりした体つきをしている。頭部と喉が黒く、額と頬がクリーム色。後頭部にも細長いクリーム色の縦斑がある。背面は暗灰色、後頸と腹面が栗色。尾は黒い。広葉樹林にすみ、特に常緑広葉樹林に多い。ソーソービー、ソーソービーとゆっくりした鼻声でさえずり、地鳴きもニーニーニーまたはビービービーという鼻声である。

シジュウカラ 全長145ミリ

頭部は黒く、頬が白い。背面は灰青色で、後頸部が緑色。腹面は白く、喉から腹の中央部を1条の黒帯が縦に走る。翼には1条の白帯があり、尾羽の両外側が白い。落葉広葉樹林に多く、広葉樹があれば針葉樹林にもみられる。ツツビー、ツツビーとさえずり、地鳴きの中ではジュクジュクジュクという声の特徴。

エナガ 全長135ミリ

尾が非常に長く、小さく丸い体つきの鳥。顔は白く、眉斑が黒い。背面は黒褐色とぶどう色のまだらで、腹面は白い。3~4mの広葉樹が多い林にすむ。ジュリリリリまたはジュルジュルという声の特徴である。

メジロ 全長115ミリ

尾が短く太って見える小型の鳥。背面は黄緑色で、目の周囲が白い。喉と下尾筒は黄色をしていて、胸と脇はぶどう色である。広葉樹林にすみ、特に常緑広葉樹林に多い。チィ、チィーという地鳴きがあり、キルルルという声も出す。

ホオジロ 全長165ミリ

全身赤褐色。喉が灰色で、尾が長く、飛ぶと尾羽の両側の白色が目立つ。♂は顔が黒く、白色の眉斑と顎線があるが、♀では顔が淡褐色で、眉斑と顎線は黄白色である。草原や耕地の近くのやぶがある林縁や疎林にすむ。「一筆啓上仕り候」とききなされるさえずりをし、チチッ、チチッと二音続けた地鳴きがある。

コジュリン

日本、ウスリー、満州、蒙古東部、中国北部に分布する東アジア特産の種。日本ではこれまでに富士山麓、山中湖、霧ヶ峰などの高原地帯で繁殖が確認され、最近では茨城県霞ヶ浦や千葉県佐原の低地アシ原で多数繁殖しているのが発見された。六川、小山(1964)は夏鳥として報告しているが、林に多い鳥の中に入れていた。繁殖地での観察記録や冬期の越冬地での観察から、いづれも草原やアシ原でおそらく林には入らないだろう。しかし、繁殖している可能性はある。

ホオアカ 全長160ミリ

ホオジロに似ているが、♂は夏羽が背面褐色で、頭上は灰褐色地に黒色の縦斑がある。耳羽が赤褐色をしており、顎線は黒い。腹面は白色、胸には黒色と赤褐色との2本の帯がある。♀は全体淡色、胸の黒帯を欠く。草原にすみ、チョンピチーとさえずる。

ノジロ

本州中部に繁殖分布が限られている日本特産の種であり、主に林縁にすむ。六川、小山(1964)は夏鳥として報告しており、繁殖の可能性はあるだろう。

カワラヒワ 全長135ミリ

全体濃い緑褐色で、♂は顔が黒っぽい。波状にとび、飛翔時には翼と尾の両わきの黄色が目立ち、尾は叉状である。飛びながらキリキリ、コロコロとなき、樹頂などに止ってキリキリコロコロ、ビーンとさえずる。農耕地、河原、マツ林などにすむ。

ウソ 全長155ミリ

太くて短い嘴をもち、太った体つきをしている。嘴、頭、翼、尾は黒く、背が灰色で、腹と腰は白色。♂は頬から胸にかけてバラ色だが、♀はこれを欠き、灰褐色である。飛ぶと翼の白帯と腰の白さが目立つ。ヒイ、フウ、ヒイ、フウと口笛に似た声で鳴く。亜高山帯の針葉樹林にすむ。

イルカ 全長230ミリ

全体灰色。黒い頭と太く大きな黄色の嘴が特徴であり、翼と尾は紺色をしている。波状に飛び、翼に白斑ができる。山地の林にすみ、キーコーキーと澄んだ声でさえずる。キョツ、キョツという地鳴きがある。

シメ

北海道で繁殖するが、本州以南では主に冬鳥である。本州以南では、1950年に福島県、1954年に長野県から繁殖の記録があり、六川、小山(1964)は夏鳥として報告している。

ニュウナイスズメ

北海道、本州中部以北で繁殖している種であり、六川、小山(1964)は漂鳥として報告している。六川(私信)によれば西組のカラマツ林に定着しているらしい。ただし、これまでの報告は広葉樹林の樹洞に営巣していることから、今後の調査が必要である。

ムクドリ 全長240ミリ

背面は暗褐色で、顔と腰が白い。腹面は喉から胸にかけて灰黒色、腹部以下は灰白色である。嘴と脚の橙黄色が特徴。直線的に飛び、腰の白色と短い尾、尾端の白帯が目立つ。農耕地や村落に多く、地上で歩行しながら採餌する。群れでみかけることが多く、リャーリャーまたはキャラキャラと鳴く。

カケス 全長330ミリ

頭上は白色の地に黒色の縦斑があり、背面と腹部はぶどう色。翼の雨覆は藍色と黒のまだらをしており、風切羽は白と黒。腰は白く、尾は黒い。

飛び方は巾広い翼をゆっくり動かし、速度が遅い。飛ぶと翼の白と黒、腰の白さが目立つ。低山帯の森林にすみ、ジェーイ、ジェーイとにごった声でなく。

オナガ 全長365ミリ

全体淡い灰褐色で、尾の長い鳥。頭部は黒く、尾が灰青色をしている。短く丸い翼を早く羽ばたいて飛び、楔形の長い尾が特徴である。人家周辺

や疎林などの開けた場所にすみ、群れていることが多い。ギューイ、ギューイとにごった声でなく。

ホンガラス 全長345ミリ

全体暗褐色。顔から背、胸、腹にかけて白色の縦斑があり、尾の先端と下尾筒が白い。亜高山帯の針葉樹林にすみ、ガー、ガーとしゃがれた声でなく。

菅平の鳥相について

菅平の付近の鳥類について、六川・小山(1964)が131種を報告し、それ以後10種が新たに記録されて、総種類は141種になった。これらの種は14目36科83属にわたっており、一地域としては種類数の豊富な鳥相であるといえるだろう。

このうち、繁殖期の鳥の生活環境により、草原の鳥(疎林および林縁部の鳥を含める)と森林の鳥に大別できる。これらの二つのグループは菅平の植生の特徴をよく表わし、特に草原性の鳥は菅平の鳥相を特徴づけている。これらの鳥は、根子岳、四阿山の西南斜面に広がる草原、草原に灌木がまばらに生えた疎林、および草原に隣接した林縁部を生活場所としている。前者ではノビタキ、ホオアカ、ヒバリ、ウズラ、キジなど、後者ではホオシロ、アオジ、ビンズイ、アカモズ、アカハラ、ヨタカ、カッコウなどが代表的な種であり、本州高原部の典型的な鳥相といえよう。さらに本州以南では繁殖地が局地的にしか知られていないマキノセンニュウ、コジュリン、ノジコがこれまでに報告されており、これらの種の繁殖が確認できれば、菅平の鳥相を特徴づける種となろう。

森林性の鳥の種数は、これまでの報告によるとかなり多い。しかし、個体数については、調査をしていないので断定はできないが、筆者らの観察では、草原性の鳥に比べると個体数が少ないように思われる。このことはおそらく菅平の森林面積の大部分がカラマツの人工林によって占められ、天然林が少ないということと関連しているのであろう。元来、カラマツ林を生活環境とする種は非常に少なく、カラマツ林にみられる鳥はカラマツそのものというより、林内の中下層の植生に依存している場合が多い。従って、中下層木を欠くようなカラマツの純林には、森林性の鳥の種類数も個体数も少ない。

ところで、菅平の標高を考慮に入れると、森林性の鳥の中でも低山帯上部から亜高山帯の種を対象とする必要がある。これらの種としてはホンガラス、ウソ、ヒガラ、コガラ、サメビタキ、キビタキ、メボソムシクイ、キクイタダキなどがあげられるが、コガラ、キビタキを除いた残りの種は針葉樹林性の種で、根子岳と四阿山の山頂を結ぶ地域のトウヒ、シラビソ、コメツガなどの天然針葉樹林を中心にしてみられる。一方、コガラやキビタキは広葉樹林性の種であり、これらの鳥が針葉樹林性の種に比べて少ないのは、天然広葉樹林、特に本州の低山帯上部にみられるブナ帯が、現在菅平では、ほとんど見られないことに関連しているよう。

以上、菅平の鳥相について、これまでの報告を基に述べてみたが、今後、マキノセンニュウ、コジュリン、ノジコなどの繁殖確認の調査と共に、草原性、森林性の鳥についてもセンサスをまじえた調査を行ない、あらためて菅平の鳥相について考察をする必要がある。

引用文献*

- 安藤 裕 (1967) 鳥類. 長村誌 長財産区 71---73
 小林桂助 (1956) 原色日本鳥類図鑑 保育社
 宮下義貫 (1964) 上高井の鳥類. 長野県上高井郡誌 上高井教育会 自然編 423—440
 六川憲七郎 (1962) 鳥類の生態と分布. 上田小県誌 上田小県誌刊行会 第1巻 709~734
 六川憲七郎・小山達夫 (1964) 菅平付近の鳥類. すが平その自然と人文 菅平研究会 79—85
 八木誠政 (1939) 東京文理科大学附属菅平高原生物研究所と附近の景観及生物. 採集と飼育
 [1] 342—351
 †東京教育大学理学部動物学教室動物生態学研究室 (1957) 菅平産動物目録1~24 (孔版印刷)
 †横沢末木 郷土の野鳥 (未発表)

Summary

1. This paper deals with the avifauna in Sugadaira and vicinity, Nagano Prefecture, central Japan.
2. There are four types of vegetation in Sugadaira and vicinity, *viz.* grasslands, marshes, forests and agricultural areas. Most of the forest areas are larch plantations and natural forests are scarce.
3. The total number of species in these regions is 141, of which 137 species have already been reported and 4 other species are recorded for the first time in this paper.
4. The avifauna is composed of grassland and woodland birds. It is characterized by the grassland birds which are common in the highlands of central Honshū. Of the woodland birds, more species are found in the conifer forests than broad-leaves trees.
5. Streaked grasshopper warbler (*Locustella lanceolata*), Japanese reed bunting (*Emberiza yessoensis*) and Japanese yellow bunting (*E. sulphurata*) have very localized breeding ranges in Honshū, but they have been reported in summer in Sugadaira. Their breeding in this region has not yet been confirmed, however, and requires further study.

(齊藤隆史 東京教育大学理学部動物学教室: Zoological Institute, Tokyo Kyoiku University, 安藤裕 東京教育大学理学部附属菅平高原生物実験所 Sugadaira Biological Laboratory of Tokyo Kyoiku University)

* †は資料である